

## まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第13回（平成19年度第2回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成19年7月31日（火）10:00～12:00
開催場所	みなと大通り別館6階 ソーホーかごしま会議室
出席者 （委員）  （市職員）	委員14名、市職員7名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、今別府委員、四元委員、 槐島委員、岩元委員、岡本委員、武委員、永山委員、 奈良迫委員、西委員、前田委員、山本委員 新地企画部長、黒木政策推進課長、原政策推進課主幹、幸環境部参事、 村川環境保全課長、田畑環境政策課主幹、小川環境協働課主幹、 賀籠六リサイクル推進課ごみ減量係長 その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部政策推進課
会次第	1 開 会 2 報 告 （1）第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （2）第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） （3）第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等について 3 協 議 （1）3カ年のとりまとめについて （2）テーマ：環境 4 その他 5 閉 会
会議の概要	1 開 会 2 報 告 （1）第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について ○ 事務局から、第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。 （2）第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） ○ 事務局から、第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項5項目について報告。 （3）第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等について ○ 事務局から、第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等の概要について報告。  3 協 議

(1) 3カ年のとりまとめについて

- 事務局から、3カ年のとりまとめについて説明あり。
- 委員から、説明資料の基本的な考え方について確認したい。「とりまとめにあたっては地域会議と連携し」とあるが、既に、これまでの会議でも地域会議の内容、特に全市的なものはこの会議で毎回報告し、回答をいただいていた。そういうことを踏まえて連携するというのは具体的に何を行うのかとの発言あり。
- 事務局から、これまでの2カ年にわたってまとめをつくってきたが、その方式を3カ年のまとめにも使うということである。かごしま会議、地域会議の両方を載せていくということで、連携という言葉を使っているが、今までどおりということであるとの説明あり。
- 会長から、「各地域の特徴・魅力を掲載し、各地域のPRにつなげる。」とあり、連携しないとこの辺はなかなかうまくいかない。その先々、報告書だけまとめたらいいというわけでもない。地域まちづくり会議とか、地域の方々に、魅力とか特徴とか、そういうものを聞いていろいろやっていくということと、地域の方々にそういうものを自覚・認識していただく、再発見していただくということもあると思う。今後、PRを行うということになるといろいろとご計画いただかなくてははいけない。今後とも非常に重要なことになるとの発言あり。

(2) 環境について

- 事務局からテーマに関して、「環境関係資料」について説明あり。
- 委員から、合併以降、ゴミ処理については、鹿児島市の非常にレベルの高い収集システムによって、旧町も運営されていると思う。しかしながら、このことで、旧町時代の自助努力してゴミを減らそうという意識が下がってはいけないと思う。この意識が合併によって落ちてきているということはないのだろうかとの発言あり。
- 委員から、地域会議でも、旧町時代は非常に分別していたが、最近、鹿児島市になって、焼却場ができたこともあり、何もかも一括して燃やすことがあるという意見が出ている。今後もこれを続けていくと、住民の分別に対する認識・意識が下がるのではないかとの発言あり。
- 事務局から、今年1月、北部清掃工場稼働に伴い、分別が燃やせないから燃やせるに品目移行した際に、あくまで燃やせないゴミの一部を燃やせるゴミに移行し、プラスチック容器といった資源物は今までどおり資源物として回収すると広報したところだが、実際は燃やせるゴミにプラスチック容器類が混ざっていることが若干はあるのではなかろうかと思っている。このことは資源物は資源物として収集すると周知広報を図っていかねばならないと考えているとの発言あり。
- 委員から、住民サービスとしては、何でも入れて回収できるのはすごいメリットで、多くの市民はそれを望んでいるし、それに対応する行政は非常に大事な施策展開であったと思うが、一方、ゴミはなくなるわけではないわけで、しょうがなく分別しなくてははいけないということをやっている。その意識というのが、収

集の方式が便利になって、分別する意識がなくなってしまうとゴミの問題は終わらない。そういった中で、環境未来館の啓発事業は大事である。便利で快適なごみ収集の環境下においても、リサイクルの思想を育めないだろうかとの発言あり。

- 委員から、ゴミ問題は行政だけではダメである。そのため、市民が意識を持つという取り組みが私どもの仕事であるので、美化推進員といった制度を作りながら、ゴミを出す時は分別を徹底していくとか、出す側を意識していくような啓発活動をしている。燃やせる、燃やせないの分別を意識しないと困る。ゴミ袋を見分けるという取組みを今年も3回やっているが、住民自らやろうということをやっている。

やはり一番大事なことは、ゴミを出さないということに方向を向けるということ。ゴミ処理をする時代ではなくなっている。無駄なものは買わない。マイバッグ、マイ箸もそうだが、そういった方向に意識を持っていくようなことをしていかないと、ゴミ問題は解決しない。北部清掃工場は便利なようにみなさん受けとめているが、出すことは変わらないわけで、埋め立て処分場のことが絡んでいる。ただ、燃やせるゴミを出せるんだという意識が定着するといけない。そういう啓発活動を私たちの組織では大事にしてやっている。

やはり美化活動というと、他にゴミステーションの管理の問題もあるが、一番の問題は不法投棄・ポイ捨てがなくなること。以前より減ったがやはりある。

それに、公園の犬・猫のフンにも関心が高い。環境未来館の芝生も、犬・猫の絶好の場所になると心配している。対策が必要なのでは。公園みたいにして行かれるといけない。ゴミ出しと一緒に捨てる人・飼い主のマナーが大事との発言あり。

- 委員から、現在、鹿児島市が考えているゴミ収集の方法である「燃やして埋める」以外にも、「収集のあり方も一括でなく個別に。」、「バイオを使う方法もあるのでは。」といろいろな新しい意見がある。環境未来館では市の方針を宣伝・啓発するだけでなく、あらゆる方法・意見の発表・検証の場であってほしい。また、市民全体でゴミ処理をどのようにしていったらいいかを同じ立場で考えられるようなしかけをしていただけないかと思う。いろんな場で不満に思うのはそのやり方はおかしいと思いながらどこも言う場がなく進んでいくところ。

また、環境未来館はきれいなイメージだが、人間は食べたら出すもの。ゴミは生ゴミもあるが、糞尿もある。教育の場では、そういったものを含めて環境型社会のあり方というか、そういう部分の視点も入れてほしい。

また、県民交流センターに「いのちの学習館」があり、エコクラブとか、小中学生を対象にしたエコに関する講座が開かれている。そういったものとの連携、区分けはどうするのかとの発言あり。

- 事務局から、環境未来館は、市の施策を宣伝する場としての機能はもちろんあるが、館の目的は、市民・事業者・行政が環境問題に関心を持ってもらい、意識して、実践に結びつけていくということまでをお願いしたいということ。そのためには、啓発、教育、学習といった機能もあるが、住民団体同士の

情報交換や活動の場であり、そういった場を通して、意見を主張しあったり、考え方を共有したり、理解し合ったりできるようにしたい。

また、運営についても、いろいろな公の施設や学校教育の現場、社会を構成する事業所との連携を深めるとともに、市民のみなさん・団体の方の意見を聞く場を設け、それを反映させていきたい。

また、県民交流センターの施設とは、環境未来館を作るにあたっては協力やアドバイスをいただきながら、また、それぞれが役割分担をし、連携して取り組むことを共通に認識し合っているとの発言あり。

○ 委員から、合併するまで都市生活者のゴミ対策がメインだったと思うが、たくさん町の町と一緒にすることで、農山間地区、漁村地区におけるゴミ問題もあると思う。今までは都市生活者、サラリーマンのゴミ処理だけの感覚なので、農村などの各地域でこうやってうまく処理している、各地域でここまで細かく分別しているというのをたくさん紹介してほしい。鹿児島市の市民にとって、うまく解決しているというのはすばらしいことであると思うし、生ゴミをきちんと堆肥にする仕組みなど農村地域にはあると思う。環境未来館でたくさん紹介し、ゴミ問題を共通認識として市民が感じあえるものにしてもらえればと思うとの発言あり。

○ 会長から、今までなかったノウハウがいっぱいある。そういったものを掘り起こして学べるものは学ぶことが大事であるとの発言あり。

○ 委員から、鹿児島市は最新の環境行政手法を取り入れられていると感じるが、ぜひ、岩手県や東京都周辺などで実施している環境会計を、市でも導入してほしい。いかなる環境施策が有効か、効率的かを考えるうえで非常に役に立つツールである。行政といえども、清掃工場や污水处理場において、環境への負荷を与えているところであり、市民に対する説明責任を果たすことの一つにもなる。また、環境保全条例にもとづく環境管理指針があり、これは事業者に対する評価だと思うが、市役所自体の事業に対する環境活動評価はしているのかとの発言あり。

○ 事務局から、鹿児島市の事業に対する評価は、環境配慮率先行動計画の中で鹿児島市のいろんな事業活動について評価を実施している。今後も厳しく進めていきたい。各事業所においては、ISO14000シリーズで取り組んでいる企業もあると思うが、市役所としてはそれに準じた率先行動計画ということを実施している。

なお、環境会計については、大変重要な項目であり、今後、環境を全ての事業に念頭に置きながら進めていくという大きな要素もあるので、今後検討させていただきたいとの発言あり。

○ 委員から、環境未来館について、大変素敵で、緑いっぱいの施設であると思うが、屋根の芝生は土のないところに植えるのか。電車軌道敷も芝を植えているが、一番下には土があってほしい。雨が降ったときに水を吸収しなければ、芝生が生きられないと思うし、セメントに塗られてしまうと、集中豪雨の際、道路が川のようになり、人が作った水害となってしまうのではないかとの発言あり。

○ 事務局から、建物の屋根部分については、屋上緑化あるいは壁面緑化のよう

にヒートアイランド対策として技術が開発されており、それに植え込むことになる。屋根部分の最後にコンクリートが出てくるが、駐車場やオープンスペースは普通の芝生の貼り方になる。できるだけ緑を広げることで、省エネ対策、ヒートアイランド対策、緑のイメージで環境の象徴的なところでイメージアップを図るということで、芝生と木でと考えている。また、一定の量は保水できる場所であるとの発言あり。

- 委員から、芝生は精神的に潤いを与えるため、中央公園の芝生は人気がある。だが、ニューヨークのセントラルパークと比べて非常に狭い。もう一つあのような公園があればと常々思うし、中央公園と城山が繋がれば、ニューヨークのセントラルパークに劣らない公園になると思う。

天文館に仕事場を持っているが、落書きがものすごく多く、建物自体がゴミのようになり、まるでゴーストタウンのようになってきている。天文館には観光客が大変多く来ていることから、あれを消すことが第一の問題だと考えられるとの発言あり。

- 委員から、合併したことによる旧鹿児島市の最大のメリットは広大な緑地の確保ではないか。もう少し市民が楽しく自由に、これらの緑に接することができるように積極的に取り組んでいただきたいと思う。

このような恵まれたところがいっぱいあるので、そこにどう誘導していくか。自然遊歩道は一つの事例だが、誘導する施設、環境、意識を作り上げることにもっと取り組んでいただきたいとの発言あり。

- 会長から、私も合併時から言ってきたが、五町の強みを生かして、旧鹿児島市になかったものを生かしてやっていくのがいいのでは。そういう観点からいろんな施策を展開していくべきではとの発言あり。

- 事務局から、未来館についてだが、ここのシステムの一つに環境情報システムがある。そこは私どもが用意できる、ありとあらゆる環境情報をわかりやすく伝えたいと思っており、市民・市民団体・地域の皆さんが持っている情報を提供する場を用意することを考えている。例えばここにこんな素晴らしいところがあるとか、見所があるとか、そういったところを、GISの地図情報システムで提供し、いい場所、環境資源、環境財産として広く知っていただき、活用にもつなげるというような仕掛けを準備している。ご指摘の視点で改めてよくしていきたいと思うとの発言あり。

- 委員から、また、情報を発信する際には、同時にモラル教育もしてほしい。地域のいいところがあるというと、一度に来て荒らされることがある。例えば、たらの芽を、地域の人たちは芽しか採らないが、市域の人は根っこから切る場合がある。そういったマナーの問題も、同時に行ってほしいとの発言あり。

- 委員から、長崎のハウステンボスというところは最初から自分のところで出た生ゴミを堆肥にし、自然に戻すということをしているところとして知られている。資料では、生ゴミを減量化・堆肥化する家庭には補助金を出す制度があるが、鹿児島市の取り組みとして、もっと大きな視点で取り組めないか。例えば、ドルフィンポートあたりをモデルケースに実施するといいのでは。それと、未来館でも、コンポストイング（堆肥化）ということ、子どもたちにも教えて教育していけばいいのでは。

それと、環境問題というと、「シンクグローバリー、アクトローカリー。」と言われるように、「地球規模で考えて地域で行動する。」ということに尽きると思うが、個人レベルと地球レベルで、あまりにも格差が大きすぎて、何をしたいかわからないというのが正直な感想である。個人と地球との間のあり方などを、わかりやすく市民に紹介していただくと、もっと市民にとって参加できることがあるのではないかと発言あり。

○ 委員から、環境のまちづくりという大きな視点の中の見解として、これからまちをつくっていく際、緑をつなげたまちづくりをしてほしいと思う。公園のように緑を単発的に作っても、生き物たち・昆虫はそこの中だけしか生きられないものである。また、ぜひ、市内にも緑をつなげた遊歩道的なものを作ってほしい。観光的にも団塊の世代が鹿児島市に来てゆっくり市内の街を歩くようなところがなかなかないというふうにいるし、未来館に行くにも緑をつなげた歩いていけるスペースがあればいいと思うとの発言あり。

○ 委員から、広い意味で環境だが、路上禁煙地区をつくっているが、路上ガム禁止エリアをつくってほしい。一番景観の観点で町を汚しているのが、ガムの黒い汚れである。シンガポールは実際、ガムの持込を禁止されている。鹿児島市が禁止エリアを作ればメディアでも取り上げられると思うし、他に続く自治体も現れると思う。

また、温室効果ガスの排出量について、自動車が一番大きな原因だと思う。旧加世田市がサイクルシティ宣言をしていたが、自転車を生かしたまちづくりは自動車を使わない環境に優しいまちづくりといえる。自動車交通量の多い鹿児島市こそが、こういった自転車を使おうとか歩こうという運動をする価値があると思う。ぜひキャンペーンなど実施し推進していただきたいとの発言あり。

○ 会長から、本日は随分いろいろとご意見をいただいた。環境関係の部署の方、守備範囲はご検討いただいて、その他はしかるべき対応をお願いしたいとの発言あり。

#### 4 その他

○ 事務局から、次回会議は9月下旬頃の開催を予定しているとの発言あり。

#### 5 閉 会

=以上=